

## 第2款 総務費

### 項1 総務管理費

#### 目1 一般管理費

##### 1 市バス運行業務委託料

章	6	節	—	施策	—
---	---	---	---	----	---

予算額	7,302	決算額	7,302
-----	-------	-----	-------

市が所有するバスについて運転業務を民間に委託し、業務の効率化を図った。

委託台数 2 台

委託内容 市が行う各種行事に係る参加等の送迎、市バスの保守点検

※債務負担行為設定(平成18年度～平成22年度)

##### 2 自治体職員協力交流事業費

章	6	節	2	施策	2
---	---	---	---	----	---

予算額	2,692	決算額	2,307
-----	-------	-----	-------

海外の自治体等の職員を受け入れ、本市が培ってきた行政のノウハウや技術の習得を図るとともに、国際化施策等への協力を通じて、本市の国際化を推進した。

事業内容 研修生 1人(中国黒龍江省綏化市)

研修期間 6カ月(本市滞在5か月)

研修内容 一般行政・観光行政研修、道内・道外視察研修

交流内容 市民・職員向け語学・文化講座の実施、児童生徒との交流

##### 3 国際交流推進事業費

章	6	節	2	施策	2
---	---	---	---	----	---

予算額	360	決算額	303
-----	-----	-----	-----

「友好都市提携同意書(平成18年11月20日調印)」を締結したサイパン市の中学生一行10名(引率者3名含む)を受け入れ、平成21年2月1日から2月5日までホームステイ体験や本市中学生との交流などを行った。また、登別デンマーク協会が受け入れたデンマーク人研修生による国際理解講座を開催するなど、本市の国際交流の推進を図った。

##### 4 中学生海外派遣事業費

章	6	節	2	施策	2
---	---	---	---	----	---

予算額	2,535	決算額	2,258
-----	-------	-----	-------

市内の中学生をデンマークに派遣することにより、国際的な視点に立って行動できる人材を育成するとともに、派遣体験報告会(所属学校)の開催や派遣研修報告書の市ホームページへの掲載を通して、生徒や市民の国際理解を高めた。

派遣先 デンマーク 派遣人数 中学生6人、引率者2人

事業内容 市役所表敬訪問、学校訪問、ホームステイでの交流等

派遣期間 8月18日～8月24日

##### 5 旅券事務費

予算額	241	決算額	211
-----	-----	-----	-----

北海道からの権限移譲を受け、平成18年7月から市役所窓口において旅券の申請と交付が可能になるなど、市民の利便性の向上を図った。

旅券申請件数 776 件

## 目2 財産管理費

### 1 公共施設水洗化事業費

章	2	節	1	施策	3	予算額	3,297	決算額	3,297
---	---	---	---	----	---	-----	-------	-----	-------

老人憩の家すずらんの家(幸町)、老人憩の家明和園(登別東町)の水洗化を行った。

水洗化実施箇所 2箇所

予算額及び決算額の状況 (単位:千円)

区分	事業費	財 源 内 訳		
		市 債		一 般 財 源
		通常債	行革債	
当初予算額	4,000	2,700		1,300
決 算 額	3,297	2,400	800	97

### 2 第二庁舎改修事業費

章	—	節	—	施策	—	予算額	8,000	決算額	7,151
---	---	---	---	----	---	-----	-------	-----	-------

老朽化の著しい第二庁舎(消防本部車庫部分)について屋上防水や外壁補修・塗装などを行った。

### 3 第二庁舎整備事業費

章	—	節	—	施策	—	予算額	10,419	決算額	0
---	---	---	---	----	---	-----	--------	-----	---

老朽化している第二庁舎の自動火災報知設備を改修するとともに、屋上防水や屋根葺替・塗装を行う。

※事業が年度内に終了しないため、翌年度に繰り越した。

翌年度繰越額 10,419千円

### 4 公共用地購入費

章	—	節	—	施策	—	予算額	34,700	決算額	34,675
---	---	---	---	----	---	-----	--------	-----	--------

常盤児童館、常盤婦人研修の家、老人憩の家百寿の家敷地として使用している登別市土地開発公社所有地を取得した。

取得面積 1,769.17㎡

## 目5 総務諸費

### 1 登別・白石姉妹都市交流推進協議会助成金

章	6	節	2	施策	1	予算額	210	決算額	210
---	---	---	---	----	---	-----	-----	-----	-----

姉妹都市を提携している宮城県白石市との友好親善を目的に産業・経済・教育・文化・スポーツ・福祉などの各分野で交流事業を行っている協議会に対し助成した。

事業内容

小学生絵画作品交流展示会、少年スポーツ交流事業、ふるさと豆記者訪問事業、ふるさとを語る交流事業、姉妹都市親善水泳大会、物産展の開催

## 目6 企画費

### 1 東京登別げんきかい交流経費

章	6	節	2	施策	1
---	---	---	---	----	---

予算額	598	決算額	578
-----	-----	-----	-----

首都圏在住の登別出身者等で構成される『東京登別げんきかい』は、市にとって有益な情報の提供や人脈づくりの原動力になるなど、首都圏における登別の応援団として貢献している。

また、平成20年度は『東京登別げんきかい』設立20周年を記念し、ふるさと登別訪問ツアーや設立20周年記念総会・情報交換会を開催した。

会員数	平成20年	508人	平成19年	496人	平成18年	482人
-----	-------	------	-------	------	-------	------

活動状況 ・ふるさと登別訪問ツアー(8月) 20人

・東京登別げんきかい設立20周年記念総会・情報交換会(11月) 130人

### 2 ふるさと大使関係経費

章	6	節	2	施策	1
---	---	---	---	----	---

予算額	60	決算額	52
-----	----	-----	----

登別市にゆかりのある人を登別ふるさと大使(通称:のぼりべつ鬼大使)に任命し、様々な機会を通じて登別市のPRをしてもらうとともに、まちづくりに役立つ有益な情報を収集し、提供してもらう。

大使数 51人(日本人 31人・外国人 20人)

### 3 市民憲章推進協議会助成金

章	6	節	1	施策	2
---	---	---	---	----	---

予算額	150	決算額	150
-----	-----	-----	-----

市民憲章の精神が、日常の市民活動の場でより良いまちづくりに活かされることを目的に、各種実践活動を展開している市民憲章推進協議会に対し運営費の一部を助成した。

事業内容 市民憲章だよりの発行、花いっぱい運動の推進、  
花壇コンクールの実施、花壇写真展の実施等

### 4 コミュニティ助成事業補助金

章	6	節	1	施策	2
---	---	---	---	----	---

予算額	2,500	決算額	2,500
-----	-------	-----	-------

財団法人自治総合センターが行うコミュニティ助成事業を活用し、コミュニティ組織が行う活動に必要な設備等の整備に助成を行った。

なお、補助金は(財)自治総合センターから市に助成金として全額交付された。

助成対象団体 登別青年会

助成内容 用具購入費(鬼まつりに必要な鬼の面、鬼の衣装等)

助成金額 2,500千円

### 5 知里幸恵フォーラム開催事業補助金

章	5	節	3	施策	2
---	---	---	---	----	---

予算額	120	決算額	0
-----	-----	-----	---

知里幸恵の生涯と業績を後世に伝えようと活動している市民団体が開催するフォーラムを支援していたが、(財)アイヌ文化振興・研究機構からの補助金と自己資金による運営が可能となったため、平成20年度以降の補助金は辞退することとなった。

6 移住促進経費

章	6	節	2	施策	3
---	---	---	---	----	---

予算額	100	決算額	85
-----	-----	-----	----

首都圏等の団塊の世代を主な対象として、参加自治体と連携・協力し、北海道への移住を促進するとともに、民間による移住ビジネスの創出などにより、北海道全体の振興を図るため、北海道移住促進協議会に加入した。

・移住相談ワンストップ窓口の設置	利用者数	24人
・登別市移住情報ホームページの設置		
・短期移住体験の場の提供	体験者数	6組12人

7 (仮称)西胆振地域づくりビジョン策定負担金

章	6	節	2	施策	1
---	---	---	---	----	---

予算額	527	決算額	505
-----	-----	-----	-----

西胆振圏が将来一つのまちになった場合に、各市町の特性を生かし、どのようなまちづくりが可能であるか等、住民がまちの将来について考えることができる資料として「西胆振地域づくりビジョン」を策定した。

8 北海道洞爺湖サミット関係経費

章	6	節	2	施策	2
---	---	---	---	----	---

予算額合計	7,000	決算額合計	6,770
-------	-------	-------	-------

平成20年7月7日から9日にかけて、洞爺湖町において開催された北海道洞爺湖サミットを契機に、本市の魅力を国内外に情報発信し、まちづくりの活性化を図るとともに、市民や関係団体と協働し、サミット開催に伴い来登される方の受入態勢の構築やおもてなしを行ったほか、環境保全、美化などの取り組みを進め、協働のまちづくりを推進した。

主な取組状況

◇市内小中学校での環境教育等の取り組み	予算額	156	決算額	123
<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境に関する標語展及び環境に関するポスター展を実施した。</li> <li>・平成20年6月28日に「のぼりべつ こども環境サミット」を実施した。</li> </ul>				
◇1人1日1kgCO2削減運動	予算額	322	決算額	321
<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報紙での啓発及びパンフレットの配布を行った。</li> </ul>				
◇春・秋のクリーン作戦				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成20年4月20日(春のクリーン作戦)</li> <li>・平成20年6月22日(登別クリーン作戦)</li> <li>・平成20年10月19日(秋のクリーン作戦)</li> </ul>				
◇市民団体によるクリーン活動				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・国道、道道、市道、漁港等の市民団体による清掃活動の実施を支援した。</li> </ul>				
◇不法投棄防止 夜間・早期の巡回パトロール活動				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成20年5月21、22、27、29日の4回実施した。</li> </ul>				
◇不法投棄・ポイ捨て・ペットのふんの放置防止に係る街頭啓発				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成20年6月10日～6月12日にボスファール登別、アーニス、登別旭友ストアーで実施した。</li> </ul>				
◇ペットのふんの放置・ポイ捨て防止にかかる巡回指導				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成20年6月16日～6月25日に市内の河川等11箇所巡回指導を実施した。</li> </ul>				

◇道道洞爺湖登別線 温泉誘い街道創出作戦

・歩道の草刈やゴミ拾い等、沿道美化活動を実施したほか、登別東インター出口正面にある築山花壇・国道の歩道部植樹帯等への花植えを実施した。

◇観光道路クリーン作戦

・平成20年4月15日、5月15日、6月13日に実施した。

◇G8関係団体に対するセレモニー

予算額	163	決算額	163
-----	-----	-----	-----

・G8関連団体に対し、歓迎の意を表するため「郷土芸能熊舞い」、「鬼っこマーチングバンド」、「北海自衛太鼓」などの歓迎セレモニーを実施した。

◇外国人観光客への案内体制の整備

予算額	4,988	決算額	4,987
-----	-------	-----	-------

・観光案内看板における外国語表記や案内所の充実を図ったほか、韓国語、中国語、英語の電話通訳を行った。

◇パンフレットによる情報提供

予算額	683	決算額	683
-----	-----	-----	-----

・G8各国大使館及び道内所在の総領事館・名誉領事館にパンフレットを送付したほか、外国語表記パンフレットを作成し、外国人への情報提供を行った。

◇海鮮直市

予算額	100	決算額	93
-----	-----	-----	----

・平成20年6月22日、29日、7月6日に実施し、水産物の直売の他、えび汁(200食×3日)のサービスを行った。

◇温泉来訪者に対するおもてなし

・温泉街の美化や温泉商店街、飲食店で英語メニュー表記を行った。

◇あいさつ運動の展開

・あいさつ運動の啓発や外国語でのあいさつ紹介(ポケットあいさつ集の配布、掲示用あいさつ集の配布)を行った。

◇アフリカ支援(物資援助)

・平成20年7月6日のほりべつ国際交流会と協力して、アフリカの難民などに衣料の送付を行った。

◇懸垂幕等の掲示

予算額	588	決算額	400
-----	-----	-----	-----

・市役所本庁舎に懸垂幕を設置したほか、婦人センターや鷺別公民館にサミット横看板を設置した。

◇北海道洞爺湖サミット開催100日前イベント「ペットボトルキャンドルナイト」

・平成20年3月29日にサミット開催の100日前イベントとして、火を灯したペットボトルキャンドル750個で「G8 Welcome」の光の文字を描いた。

9 (仮称)市民活動センター整備事業費

章	6	節	1	施策	2
---	---	---	---	----	---

予算額	44,067	決算額	0
-----	--------	-----	---

市民自らが行政や各種団体、企業等と協働し、「市民力」を結集して、市民が生き活きと暮らせる社会、地域に貢献できる喜びを実感できる社会の実現に向けた市民活動を推進することを目的とし、旧登別自動車学校敷地の一部及び建物を購入し、まちづくりなどを行う市民活動団体の活動拠点及び市民活動支援拠点として整備する。

※事業が年度内に終了しないため、翌年度に繰り越した。

翌年度繰越額 44,067千円

## 目8 行政情報費

### 1 広報広聴経費

章	6	節	1	施策	3
---	---	---	---	----	---

予算額	11,324	決算額	10,311
-----	--------	-----	--------

市政情報を総合的に提供し、市民や地域の声・ニーズを的確にとらえ、市政に反映させるよう努めた。

#### 広報紙の発行

- ・「広報のぼりべつ」 毎月1回発行(計406ページ)
- ・広報モニター 市民12人依頼  
年1回の広報モニター会議への出席、広報のぼりべつ  
6月号から3月号までの「アンケート評価」への協力。
- ・広報リポーター 市民公募1人  
3月号の『市民レポート』のコーナーに掲載

#### 各種懇談会の開催

- ・地区懇談会 10地区 出席者数 300人
- ・地区課題の把握 24町内会等 要望件数 71件
- ・市職員出前フリートーク 13回 参加者数 約300人

#### 市民見学会の開催

- ・市民見学会 年3回 参加者数 49人
- ・三市合同施設見学会 登別市で開催 参加者数 40人(うち4人登別市民)

#### 市の仕事の作成

発行月 平成20年6月 ページ数 76ページ

- ※ 広告収入について 平成20年度 1,360,800円の収入  
(1枠当たり単価13,500円×1.05)

(課題)

広報の配布については、地域の実態に最も明るい町内会を通じて配付をしていることで、ほとんどの世帯を網羅しているが、町内会未加入者に対してどのように広報を配付して全戸を網羅していくか、市のホームページからのアクセス、主だった公共施設の配付を通して、課題の解消に努めている。

### 2 行政情報化経費

章	6	節	1	施策	3
---	---	---	---	----	---

予算額	13,835	決算額	13,125
-----	--------	-----	--------

住民基本台帳や市税、国民健康保険など基幹業務の膨大な情報を電子計算機により一元管理し、処理することで、行政事務の迅速化・効率化が図られた。また、業務担当部署に配置されたオンライン端末と各支所を結ぶ専用光回線により、窓口での照会や諸証明の発行等に要する時間が短縮され、窓口事務の迅速化が図られた。

なお、基幹業務の電算処理は、平成20年1月に西いぶり広域連合共同電算事業に移行した。

### 3 OA化推進経費

章	6	節	1	施策	3
---	---	---	---	----	---

予算額	18,409	決算額	16,046
-----	--------	-----	--------

従来からの事務処理の効率化を目標とした「OA化」に止まることなく、住民の視点に立った行政サービスの質的向上と情報ニーズへの的確な対応を図った。

### 4 地域情報センター運営管理経費

章	6	節	1	施策	3
---	---	---	---	----	---

予算額	7,645	決算額	7,320
-----	-------	-----	-------

IT(情報通信技術)が急速に進展する状況下において、市民生活への普及とデジタルデバインド(情報格差)の解消が課題となっている。平成13年11月に開設した地域情報センターでは、子どもから高齢者までが、気軽にパソコンなどを利用した情報通信技術に直接触れ、学び、体験できる機会の提供を行い、情報通信技術の普及を図っている。

(課題)

平成19年7月に当該施設内にハローワークが開設され、占有面積の減少や機器の削減等により開設前(H18)の利用者数と比較すると36%のマイナスとなった。

今後は、導入機材の老朽化に伴う不具合の発生が懸念されるが、パソコン所有者の増加や市内のブロードバンド環境の整備といったIT環境の変化による利用者ニーズとの乖離などを鑑みると本施設の開設当初の目的は概ね達成されたと考えられることから、今後の運営について検討が必要である。

利用者数	H20	8,510人	H19	10,932人	H18	13,376人
------	-----	--------	-----	---------	-----	---------

### 5 地域イントラネット維持管理経費

章	6	節	1	施策	3
---	---	---	---	----	---

予算額	35,352	決算額	33,186
-----	--------	-----	--------

地域イントラネットは、平成13年に登別市が事業主体となり光ケーブルによる高速通信基盤を整備するとともに、市役所本庁舎、各支所、福祉施設、小中学校、図書館など市内の公共施設等38箇所を光ケーブルで結び、情報ネットワークシステムを構築することにより、行政情報や教育など市民への高度な行政サービスの提供を目指すものである。

本市の情報インフラである光ケーブルやネットワーク機器等の保守等を行い、円滑なネットワーク運営に努めた。

ネットワーク機器の保守・修理、ウイルス対策ソフトの更新、電柱・管路の賃借、光ケーブルの保守・支障移転等(光ケーブル敷設総延長 約60km)

### 6 北海道電子自治体共同システム運用経費

章	6	節	1	施策	3
---	---	---	---	----	---

予算額	3,552	決算額	3,544
-----	-------	-----	-------

電子自治体の実現にあたって必要となる各種システムの共通基盤及び市町村電子申請システムを北海道と道内の市町村が共同で運用した。

(課題)

国が策定した「IT新改革戦略」において、「利便性・サービス向上が実感できる電子行政を実現し、国・地方公共団体に対する申請・届出等手続きにおけるオンライン利用率を2010年までに50%以上とする」、「公的個人認証に対応した電子申請システムを全市町村において2010年までに整備する」などの目標値が示されており、自治体は早期の対応を求められている。

本事業は、これらの目標を安価に実現するために道内の市町村が連携し共同で対応した取組みであること、共同電算システムにおいても当該システムの仕組みを利用していることから引き続き継続していく必要がある。

7 西いぶり広域連合共同電算事業負担金

章	6	節	1	施策	3
---	---	---	---	----	---

予算額	88,282	決算額	82,337
-----	--------	-----	--------

西いぶり広域連合は平成12年3月に「西いぶり廃棄物処理広域連合」として設立され、平成18年度には共同電算が事務に加わり、「西いぶり広域連合」へと名称が変更された。

登別市は各市町が独自にシステムを持つことなく、共同で運営することによる経費面でのメリットとともに、今後共同電算以外に広域連携を必要とする事務が生じた場合においても、他市町との連携が可能となることから平成18年11月から西いぶり広域連合に参加した。

平成19年度には、住基、税、国保等の基幹系システム、健康管理システム、人事給与システムが、平成20年度においては財務会計システム、福祉システム、上下水道料金システム、保育システムが稼働を開始している。

8 まちづくり市民ニーズアンケート調査経費

章	6	節	1	施策	3
---	---	---	---	----	---

予算額	400	決算額	372
-----	-----	-----	-----

地方分権の進展や少子高齢社会を迎え、市民との協働のまちづくりを進めるにあたり、各年代層の多様化する市民ニーズを的確に把握するとともに、総合計画第2期基本計画で設定した施策目標の達成度を把握するために、20歳以上の市民2,000人を対象にまちづくり市民アンケート調査を行った。

アンケート回収率 41.8%(835人)

目10 環境保全推進費

章	2	節	1	施策	1
---	---	---	---	----	---

1 総合的な環境保全の推進経費

予算額	387	決算額	226
-----	-----	-----	-----

環境への負荷の少ない持続的発展が可能な循環型社会を形成するため、市民・事業者・民間団体及び行政それぞれの役割分担とパートナーシップ体制を確立し、それぞれの責任のもとに、自主的、積極的な取り組みを総合的に推進するとともに、行政自ら環境に配慮した取り組みに努めた。

登別市環境基本計画に示す自然環境の保全、廃棄物対策及び資源リサイクルなどの取組状況の進行管理、登別市役所における温室効果ガス削減の取り組み、省資源対策、廃棄物の減量化・リサイクル及び環境配慮製品の調達状況の進行管理、環境保全に関する審議を行う「環境保全審議会」の運営等を行っている。

目11 男女共同参画推進費

章	1	節	4	施策	1
---	---	---	---	----	---

1 男女共同参画社会づくり推進経費

予算額	60	決算額	60
-----	----	-----	----

女性と男性がお互いの人権を尊重しあい、社会的文化的に形成されたジェンダー(性差)にとらわれず個人として能力を発揮する機会が確保される男女共同参画社会を実現するため、「のぼりべつ男女平等参画懇話会」や「プラタナス」等の市民団体と協働で、講演会を開催した。

(課題)

市民個々の段階においては、男女共同参画社会の実現に向けての意識の醸成はある程度図られたものの、企業・事業所単位では既存の枠組み・発想からなかなか脱却できないのが現状である。男女共同参画社会の実現に向けては、適切な就労条件等の整備が必須であることから、企業・事業所への働きかけをさらに推進する必要がある。



2 民間シェルター運営補助金

予算額	150	決算額	150
-----	-----	-----	-----

助成団体名 NPO法人 ウィメンズネット・マサカーネ

区 分	平成20年度	平成19年度	平成18年度
シェルター利用者数	82 人	64 人	70 人
うち登別市民	9 人	14 人	8 人
相談件数	5,131 件	3,610 件	2,914 件
うちDV・離婚関係	2507 件	2219 件	634 件

多くの場合、配偶者からの暴力の被害者は女性であり、配偶者が経済的自立が困難な女性に対して暴力を加えることは、個人の尊厳を害し、男女平等の妨げとなっている。

平成13年4月に、「配偶者暴力防止法」が制定され、その後、平成16年6月に第一次改正が、さらに平成19年7月には保護命令の拡充や市町村についての努力義務規定の強化を柱とした改正法が成立し、平成20年1月に施行されるなど、行政としてシェルターを支援する意義は大きい。

目12 幼稚園振興費

章	1	節	1	施策	1
---	---	---	---	----	---

主要データ

① 幼稚園園児数等の推移

区 分	平成20年	平成19年	平成18年	平成12年
幼稚園園児数	621 人	635 人	610 人	636 人
幼稚園数	4 園	4 園	4 園	7 園

※各年5月1日現在

1 私立幼稚園就園奨励費補助金

予算額	49,044	決算額	48,918
-----	--------	-----	--------

幼稚園教育の振興と私立幼稚園に通園する園児にかかる保育料負担の軽減を図った。

区 分	H20年度	H19年度	H18年度
支給人員	606 人	610 人	594 人

2 私立幼稚園教材教具整備事業補助金

予算額	2,488	決算額	2,488
-----	-------	-----	-------

私立幼稚園の教材教具費を助成し、私立幼稚園教育の振興を図った。

3 私立幼稚園学校給食指導経費

予算額	638	決算額	569
-----	-----	-----	-----

私立幼稚園の5歳児を対象として、10日間程度を日毎に学校給食の指導を行った。

4 私立幼稚園協会教職員研修費補助金

予算額	500	決算額	500
-----	-----	-----	-----

私立幼稚園協会教職員の教育研修事業に助成し、私立幼稚園教育の振興を図った。

### 項3 戸籍住民基本台帳費

#### 目1 戸籍住民基本台帳費

章	6	節	1	施策	3
---	---	---	---	----	---

##### 1 戸籍電算化事業費

予算額	92,129	決算額	92,114
-----	--------	-----	--------

戸籍のシステム化を行い、戸籍受付・発行時間の短縮等窓口の充実を図った。

戸籍システム部分稼動 平成20年10月14日

戸籍システム完全稼動 平成21年 1月19日

※戸籍システム稼動時件数(平成20年10月11日現在)

・現在戸籍 21,201戸籍

・除籍 19,248戸籍

・改正原戸籍 2,369戸籍

### 項5 防災費

#### 目1 防災対策費

章	2	節	3	施策	1
---	---	---	---	----	---

##### 1 防災資機材購入整備費補助金

予算額	1,200	決算額	1,200
-----	-------	-----	-------

大規模な災害が発生した場合、被害の拡大を防ぐためには行政だけでは限界があるため地域に自主防災組織を設立し、お互いに助け合うことが求められる。このため、自主防災組織の防災活動に要する資機材の購入整備に対し補助した。

(補助対象資機材～トランジスタラジオ、メガホン、ヘルメット、リヤカー等)

交付団体 幌別鉄南地区連合町内会、片倉町内会

平成20年度末自主防災組織 17組織(加入町内会数 49町内会)

(課題) 防災研修会や広報紙等により自主防災組織の育成に努め、組織率の向上と防災意識の高揚を図る。